



サンダーソニアの栽培を工夫
北海道青年農業者会議で優秀賞！

前澤 健さん

Takeshi Maezawa

水稲・花卉生産農家

不作をバネに比較研究

南 アフリカ原産で、オレンジ色の提灯のような大きな花びらが特徴の「サンダーソニア」。これまでは町内でも多く栽培されてきましたが、出芽率の不良や品質が安定しないため、栽培農家は減少。そんな難問を克服して取り組む青年がいます。

私の家は水稲と花卉の栽培農家です。サンダーソニアは10年ほど前までは、よく栽培されていましたが、現在は町内で3件ほどに減りました。我家では重要な品目として20年以上取り組み、町内の生産量の8割にもなります。しかし出芽率や年毎の品質が安定しないのがこの品種の課題です。3年前には収穫が半分しかなく、悩む日が続きましたが、新篠津村で「ユ

リ」の出芽に「プレルーティング処理」を行っているというのを聞き、これを参考に出芽率を高められるのでは、と気付いたのです。

プレルーティング処理とは、球根から土に植え変える前に一定温度で球根の状態を安定させ、出芽させる方法です。これまでは、3℃設定の冷蔵庫に入れておいた球根を常温に移動し、その1～2日後には定植していましたが、人間でも急に寒い所から暑い所へ移動するとだるくなりますね。これまでの方法は球根には大きなストレスになっていたと考えたわけです。

試験は昨年8月から始めました。水分を含んだピートモスをベツト代りに球根を埋め込み、温度管理した冷蔵庫の中で2週間ねかせました。これをハウスの中に定植し、従来方

法のものと同じハウスの中で育成状況を比較しました。この結果は、出芽までの日数が約半分で、その本数も6割増しになることが確認できました。

失敗だとしても良い事例にはなると思いい、管内の農業改良普及所単位で農業の成果を発表しあう「石狩アグリフォーラム」にこの成果を発表したところ、最優秀賞に選ばれました。2月1日に開催の「北海道青年農業者会議」へも推薦され、そこでも優秀賞を得ることが出来ました。今年の7、8月はこの方法で全部やってみようと思えます。道内のサンダーソニアの主生産地では8月、9月には出荷できないようなので、この方法で出荷時期を早めることができれば、生産農家にとって、とても大きなメリットです。（2月15日取材）